(华	47	7	١
しまり	ш	ĦI)

産業廃棄物処理計画書

令和4年6月29日

神奈川県知事 殿

提出者

住 所 東京都江東区東陽7-1-1イーストネットビル

氏 名 株式会社IHIインフラ建設 森内 昭

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 03-3699-2790

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

回を作成したので、提出します。									
事	業士	場の名和	林式会社 IHIインフラ建設					自主管理者	番号
								(1972)
車	李 怕	・の 所 左 +	東京都江東区東陽7-1-1	イーフトネットビ	п.	TEL(連約	絡先):	03-3699-	-2790
Ŧ	* **) V) L 2	5 未水即在米色米陽/ 1 1	ין אויאיאינ	,,,				
計	画	i 期 『	5	令和4年4月	1日~令和5年3	3月31日	(1 年間)		
当	亥事)	業場において	て現に行っている事業に関す	トる事項					
	1	事業の種類	頁 D-建設業	ŧ	(具体的には)	総合工事	‡(中分類	[⊐−ド:D06)	
	2	事業の規模	製造業	製造品	品出荷額				百万円
			建設業	エリア内元	請完成工事高				百万円
	※ 前年度実績を記入、医療機関は前年度末時点の病床数を記入。			病床数					床
			その他の業種	売	上高				百万円
			(上記項目に該当しない場	易合にはこちらに記	記載をしてください。)			
			資本金1億2千万円						
	3	従業員数	約500人						
	4	産業廃棄物の一連の処理の工程	勿 □ 別添1 処理工程図のとお	પ					

立る	を食棄物の処理に	・ 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学					
圧す	産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項						
	(管理体制図) 別添2 管理体制図のとおり						
産ӭ	と と と 廃棄物の排出の)抑制に関する事項					
		【前年度(令和3年度)実績】					
		産業廃棄物の種類数	8 種類	* 種類ごとの前年度排出量			
		1 ① 排出量	62,425.0 t	は、別紙のとおり。			
		 (これまでに実施した取組)					
		(これは、ここ大心した状态)					
	① 1814						
	① 現状						
		 ・ISO14000により、再生資源の購入及	び推進に奴めている				
		-13014000により、丹王貞/赤の無八次 	い推進に労めている				
		F (A S -) - (-) - (-)					
		【(令和4年度)目標】	12.15				
		産業廃棄物の種類数	8 種類	* 種類ごとの本年度排出目			
		① 排出量	56,182.6 t	標量は、別紙のとおり。			
		(今後実施する予定の取組)					
	② 計画						
		1=30##+m7					
		・上記の推進を図る ・製造業者にも協力を要請し簡易包装に	奴みる				
		・ 後回来省にも励力を安請し間勿己表に ・ 使用する材料の正確な把握により余剰					
		次/11 / の刊刊の正確では1512121200 / 水利	(17) V///(人主 (こ /) (V) (V)				
-t- 1	****						
産乳	美廃棄物の分別に	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	Div DD L T T (D)				
		(分別している産業廃棄物の種類及び分	↑別に関する収組)				
		・ISO14000により、排出作業場では、(
	① 現状	がれき類(アスコンがら)③廃プラスチック類④金属くず⑤紙くず⑥木くず					
		等への分別を図り、適切な保管場所を確保するよう努めている					
		・各支店・営業所のオフィスでは、所在地の特性に合わせ、オフィス管理者の指示に従って分別排出に努め					
	ている						
	-	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類	領及び分別に関する取組)				
	② 計 冊						
	② 計画	・上記の取り組みへの推進を図る ・理場においては、保管場所を随時パトロ	ユニル 一公別地山の海点に奴よる				
		・現場においては、保管場所を随時パトロ	コールし、万別排田の徹底に分める				

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項						
		【前年度(令和3年度)実績】				
		②+⑧ 自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら再 生利用量は、別紙のとおり。	
		(これまでに実施した取組)				
	① 現状					
		該当なし				
		【(令和4年度)目標】				
		②+⑧ 自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0.0	t	* 種類ごとの本年度自ら再 生利用量は、別紙のとおり。	
		(今後実施する予定の取組)				
	② 計画					
		該当なし				
		1.60				
自	っ行う産業廃棄物	の中間処理に関する事項				
		【前年度(令和3年度)実績】				
		⑤ 自ら熱回収を行った産業廃棄物の 量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら熱 回収を行った量は、別紙のと おり。	
		⑦ 自ら中間処理により減量した産業 廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら中間処理により減量した量は、 別紙のとおり。	
		(これまでに実施した取組)			がいれなりこの3.9.6	
	① 現状	(これはないに大心したれた)				
		該当なし				
		【(令和 4 年度)目標】				
					* 種類ごとの本年度自ら熱	
		⑤ 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0.0	t	回収を行う量は、別紙のとおり。	
		⑦ 自ら中間処理により減量する産業			* 種類ごとの本年度自ら中	
		廃棄物の量	0.0	t	間処理により減量する量は、 別紙のとおり。	
		(今後実施する予定の取組)				
	② 計画					
		該当なし				

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項						
		【前年度(令和3年度)実績】				
		③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を 行った量は、別紙のとおり。	
		(これまでに実施した取組)				
	① 現状	該当なし				
		【(令和4年度)目標】				
		③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0.0	t	* 種類ごとの本年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を 行う量は、別紙のとおり。	
		(今後実施する予定の取組)				
	② 計画	該当なし				
産ӭ	美廃棄物の処理の 「	委託に関する事項				
		【前年度(令和3年度)実績】			Т	
	① 現状	⑪ 全処理委託量	62,425.0	t		
		① 優良認定処理業者への処理委 託量	0	t		
		① 再生利用業者への処理委託量	0	t	* 種類ごとの前年度処理委託量は、別紙のとおり。	
		① 熱回収認定業者への処理委託 量	0	t		
		(4) 熱回収認定業者以外の熱回収 を行う業者への処理委託量	0	t		
		(これまでに実施した取組)				
		・運搬・処理業者との契約は少量排出の・電子マニフェストを導入し処理状況の透	場合でも排出前に締結するよう §明化を図っている	努めている		

(第5面)

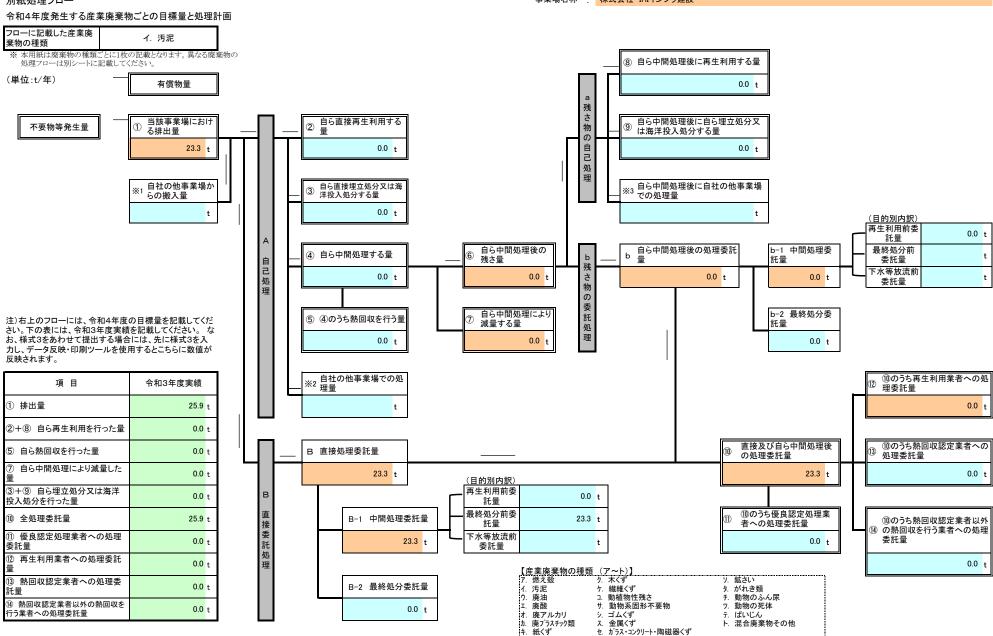
	_			第5面)			
		[(=	令和 4 年度)目標】				
	② 計画	10	全処理委託量	56,182.6	t		
					① 優良認定処理業者への処理委 託量	0.0	t
			① 再生利用業者への処理委託量	0.0	t	* 種類ごとの本年度処理委 託量は、別紙のとおり。	
		① 熱回収認定業者への処理委託 量 0.0	0.0	t			
			(4) 熱回収認定業者以外の熱回収 を行う業者への処理委託量	0.0	t		
		(今	後実施する予定の取組)				
	努·	ジェストの利用を拡大し、活用 める 部門で廃棄物関連の事務担当者を決 搬業者や中間処理業者との電子契約	央定し、適正なマニフェスト管理!				
*	事務処理欄						

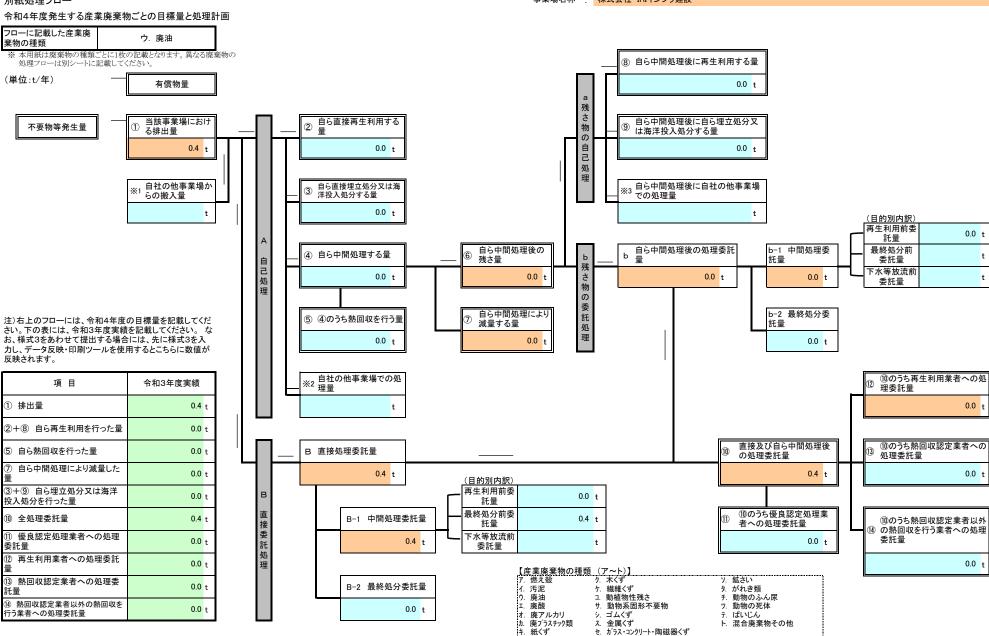
備者

1 この様式は、前年度(令和3年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成し、提出してください。

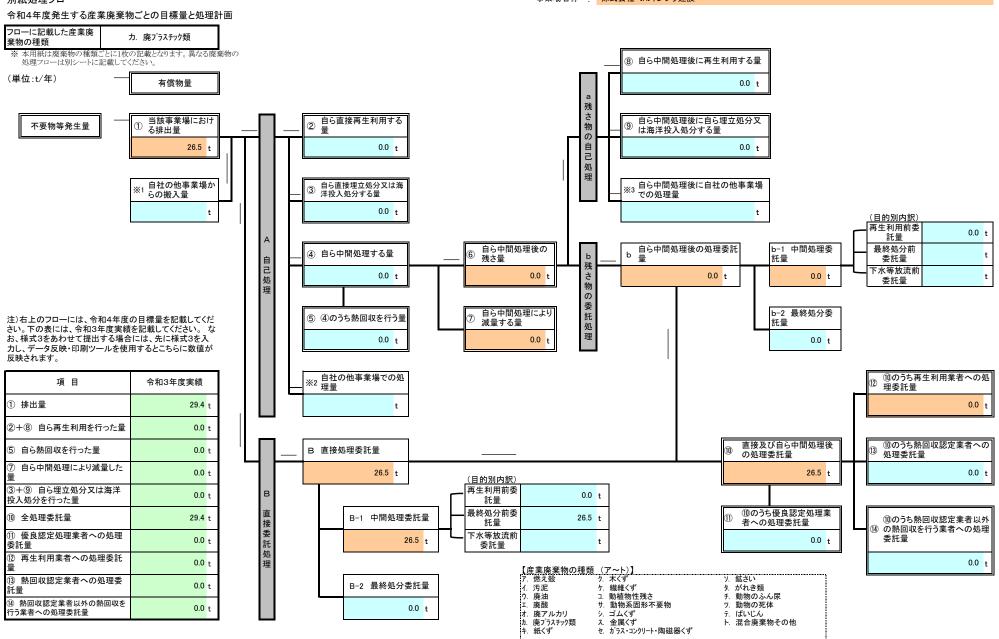
また、前年度(令和3年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン未満の事業場にあっては、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市が推進する廃棄物自主管理事業へ参加するにあたり、事業場ごとに1枚作成し、提出してください。

- 2 当該年度(令和4年度)の6月30日までに提出してください。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入してください。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類(中分類)の区分を記入してください。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入してください。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程 (当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入してください。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入してください。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入してください。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入 すべき内容を記入した別紙を添付してください。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入してください。
- 7 ※欄には、何も記入しないでください。



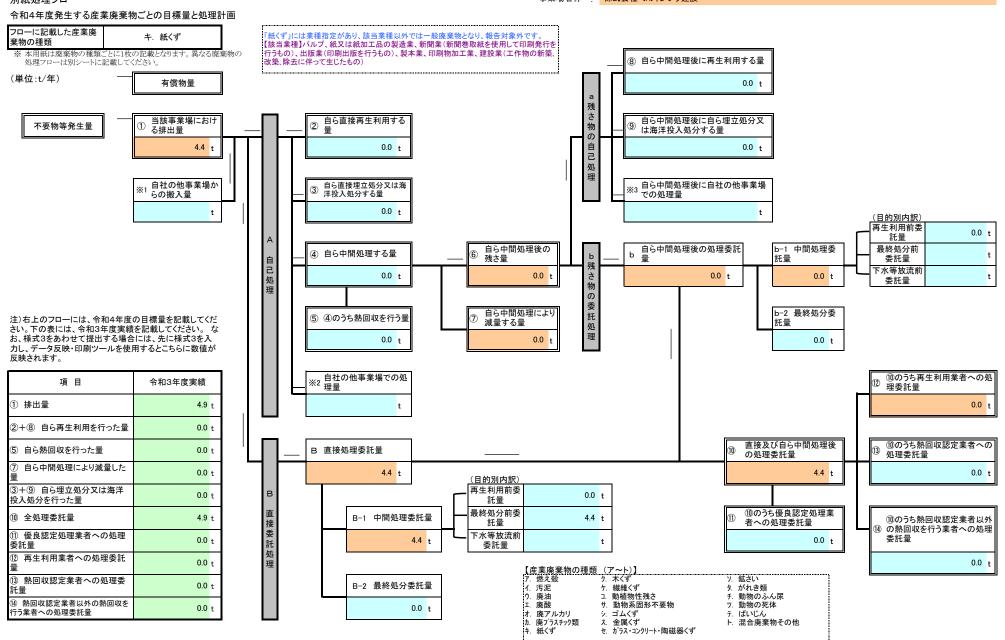


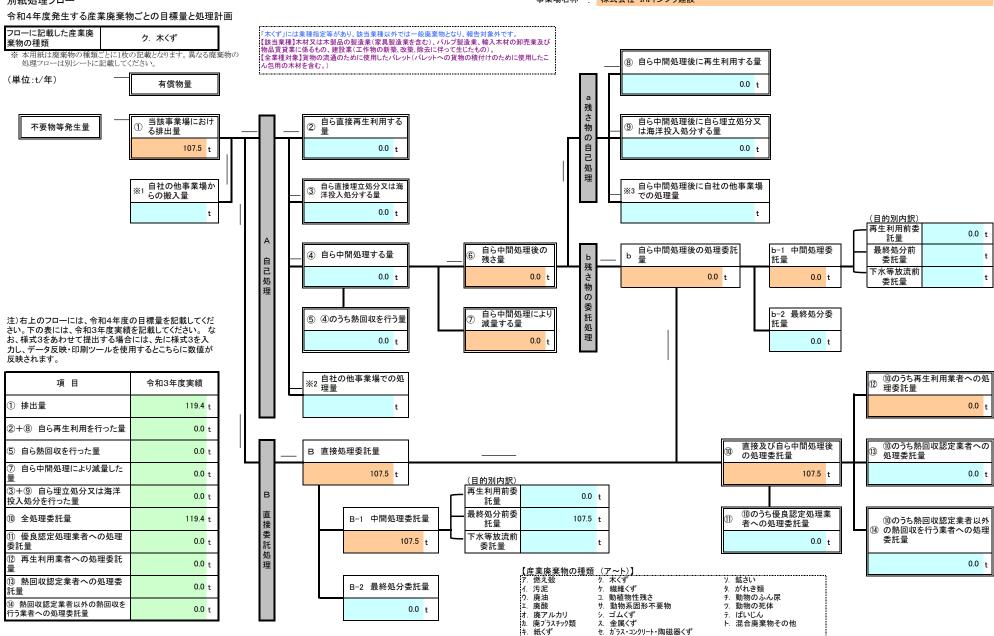
該当する欄に〇印を記入してください。 2-2 法定 自主

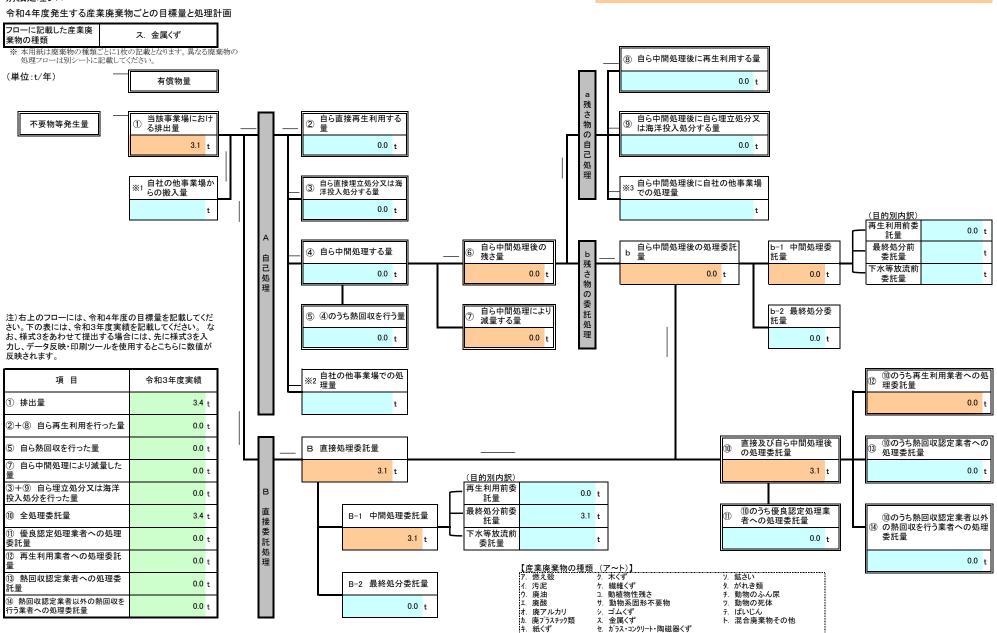


 該当する欄に〇印を記入してください。

 2-2
 法定
 自主







別紙処理フロー 事業場名称 : 株式会社 IHIインフラ建設

令和4年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画 フローに記載した産業廃 タ. がれき類 棄物の種類 ※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の ⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 処理フローは別シートに記載してください。 (単位:t/年) 有償物量 0.0 t ② 自ら直接再生利用する 量 当該事業場におけ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又 不要物等発生量 る排出量 は海洋投入処分する量 55,950,3 + 0.0 t 0.0 +自社の他事業場か 自ら直接埋立処分又は海 自ら中間処理後に自社の他事業場 らの搬入量 洋投入処分する量 での処理量 0.0 t (目的別内訳) 再生利用前委 0.0 t 託量 自ら中間処理後の 自ら中間処理後の処理委託 b-1 中間処理委 最終処分前 ④ 自ら中間処理する量 残さ量 託量 委託量 下水等放流前 t 0.0 t 0.0 t 0.0 t 0.0 t 委託量 委託処理 自ら中間処理により b-2 最終処分委 ⑤ ④のうち熱回収を行う量 注)右上のフローには、令和4年度の目標量を記載してくだ 減量する量 託量 さい。下の表には、令和3年度実績を記載してください。 な お、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入 0.0 t0.0 t 0.0 t カし、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が 反映されます。 自社の他事業場での処 ⑩のうち再生利用業者への処 ※2 理量 項目 令和3年度実績 理委託量 ① 排出量 62,167.0 t 0.0 t t ②+⑧ 自ら再生利用を行った量 0.0 t ⑩のうち熱回収認定業者への 直接及び自ら中間処理後 ⑤ 自ら熱回収を行った量 0.0 t B 直接処理委託量 ③ 処理委託量 の処理委託量 ⑦ 自ら中間処理により減量した 0.0 t 55,950.3 t 55,950.3 t 0.0 t (目的別内訳) ③+9 自ら埋立処分又は海洋 再生利用前委 0.0 t 0.0 t 託量 投入処分を行った量 最終処分前委 ⑩のうち優良認定処理業 ① 全処理委託量 62,167.0 t B-1 中間処理委託量 55,950.3 t ⑩のうち熱回収認定業者以外 託量 者への処理委託量 (4) の熱回収を行う業者への処理 ① 優良認定処理業者への処理 下水等放流前 委託量 0.0 t 55,950.3 t 0.0 +委託量 委託量 ① 再生利用業者への処理委託 0.0 t 0.0 t 【産業廃棄物の種類 (ア〜ト)】 7. 燃え殻 り. 木くず ソ. 鉱さい ③ 熱回収認定業者への処理委 0.0 t B-2 最終処分委託量 イ. 汚泥 タ. がれき類 繊維くず ウ. 廃油 動植物性残さ チ. 動物のふん尿 14) 熱回収認定業者以外の熱回収を 工. 廃酸 サ. 動物系固形不要物 ツ. 動物の死体 0.0 t 0.0 t 行う業者への処理委託量 オ、廃アルカリ シ. ゴムくず テ ばいじん ス. 金属くず ト. 混合廃棄物その他 カ.廃プラスチック類 キ. 紙くず セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず

別紙処理フロー 事業場名称 : 株式会社 IHIインフラ建設

令和4年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画 フローに記載した産業廃 ト. 混合廃棄物その他 棄物の種類 ※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の ⑧ 自ら中間処理後に再生利用する量 処理フローは別シートに記載してください。 (単位:t/年) 有償物量 0.0 t ② 自ら直接再生利用する 量 当該事業場におけ 自ら中間処理後に自ら埋立処分又 不要物等発生量 る排出量 は海洋投入処分する量 67.1 + 0.0 t 0.0 +自社の他事業場か 自ら直接埋立処分又は海 自ら中間処理後に自社の他事業場 らの搬入量 洋投入処分する量 での処理量 0.0 t (目的別内訳) 再生利用前委 0.0 t 託量 自ら中間処理後の 自ら中間処理後の処理委託 b-1 中間処理委 最終処分前 ④ 自ら中間処理する量 残さ量 託量 委託量 下水等放流前 t 0.0 t 0.0 t 0.0 t 0.0 t 委託量 委託処理 自ら中間処理により b-2 最終処分委 ⑤ ④のうち熱回収を行う量 注)右上のフローには、令和4年度の目標量を記載してくだ 減量する量 託量 さい。下の表には、令和3年度実績を記載してください。 な お、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入 0.0 t0.0 t 0.0 t カし、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が 反映されます。 自社の他事業場での処 ⑩のうち再生利用業者への処 ※2 理量 項目 令和3年度実績 理委託量 ① 排出量 74.6 t 0.0 t t ②+⑧ 自ら再生利用を行った量 0.0 t 直接及び自ら中間処理後 ⑩のうち熱回収認定業者への ③ 処理委託量 ⑤ 自ら熱回収を行った量 0.0 t B 直接処理委託量 の処理委託量 ⑦ 自ら中間処理により減量した 0.0 t 67.1 t 67.1 t 0.0 t (目的別内訳) ③+9 自ら埋立処分又は海洋 再生利用前委 0.0 t 0.0 t 託量 投入処分を行った量 最終処分前委 ⑩のうち優良認定処理業 ① 全処理委託量 74.6 t B-1 中間処理委託量 67.1 t ⑩のうち熱回収認定業者以外 託量 者への処理委託量 (4) の熱回収を行う業者への処理 ① 優良認定処理業者への処理 下水等放流前 委託量 0.0 t 67.1 t 0.0 +委託量 委託量 ① 再生利用業者への処理委託 0.0 t 0.0 t 【産業廃棄物の種類 (ア〜ト)】 7. 燃え殻 り. 木くず ソ. 鉱さい ③ 熱回収認定業者への処理委 0.0 t B-2 最終処分委託量 イ. 汚泥 繊維くず タ. がれき類 ウ. 廃油 動植物性残さ チ. 動物のふん尿 14) 熱回収認定業者以外の熱回収を 工. 廃酸 サ. 動物系固形不要物 ツ. 動物の死体 0.0 t 0.0 t 行う業者への処理委託量 オ、廃アルカリ シ. ゴムくず テ ばいじん ス. 金属くず ト. 混合廃棄物その他 カ.廃プラスチック類 キ. 紙くず セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず

該当する欄に〇印を記入してください。 一 1 法定 自主

事業場名称: 株式会社 IHIインフラ建設

別紙一括表 (単位:トン) コーサ + カ 'n 廃プラスチッ 動植物性 動物系固形 動物のふ 動物の死 がラス・コンクリー ト・陶磁器くず 混合廃棄物 がれき類 ばいじん 燃え殻 汚泥 廃油 廃酸 廃アルカリ 紙くず 木くず 繊維くず ゴムくず 金属くず 鉱さい 合計 残さ 不要物 ん尿 体 その他 ① 排出量 25.9 .4 294 4.9 119.4 3.4 62.167.0 746 62.425.0 令 ②+⑧ 自ら再生利用を行った量 0 0 0 0 0 0 0 和 ⑤ 自ら熱回収を行った量 0 0 0 0 0 0 0 0 0 3 ⑦ 自ら中間処理により減量した量 n 0 0 0 0 0 n 0 年 ③+9 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量 0 0 0 0 0 0 度 ⑩ 全処理委託量 25.9 .4 29.4 4.9 119.4 3.4 62,167.0 74.6 62.425.0 実 ① 優良認定処理業者への処理委託量 0 0 0 0 0 0 績 ① 再生利用業者への処理委託量 0 0 0 0 0 0 0 0 0 (3) 熱回収認定業者への処理委託量 0 0 0 0 0 0 0 0 ④ 熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 0 0 0 0 0 0 55,950.3 ① 当該事業場における排出量 23.3 .4 26.5 4.4 107.5 3.1 67.1 56,182.6 ※1 自社の他事業場からの搬入量 ② 自ら直接再生利用する量 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量 自ら中間処理する量 ⑤ ④のうち熱回収を行う量 ※2 自社の他事業場での処理量 自ら中間処理後の残さ量 A 🗇 自ら中間処理により減量する量 理理の ※3 自ら中間処理後に自社の他事業場での処理量 自ら中間処理後の処理委託量 b-1 中間処理委託量 再生利用前委託量 最終処分前委託量 下水等放流前委託量 b-2 最終処分委託量 直接処理委託量 В 23.3 .4 26.5 4.4 107.5 3.1 55,950.3 67.1 56,182.6 В B-1 中間処理委託量 23.3 .4 26.5 4.4 107.5 3.1 55,950.3 67.1 56,182.6 直 |接委託 再生利用前委託量 最終処分前委託量 23.3 .4 26.5 4.4 107.5 3.1 55.950.3 56.182.6 下水等放流前委託量 B-2 最終処分委託量 (10) 直接及び自ら中間処理後の処理委託量 23.3 .4 26.5 4.4 107.5 55.950.3 67.1 56,182.6 3.1 ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量 (12) ⑩のうち再生利用業者への処理委託量 ⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量 ⑩のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委